

令和3年度 決算報告

令和3年度の決算報告&財政運営の健全度および石岡市の財産と市債状況(令和4年6月30日時点)についてお知らせします。
 財財政課 Tel 23-7293

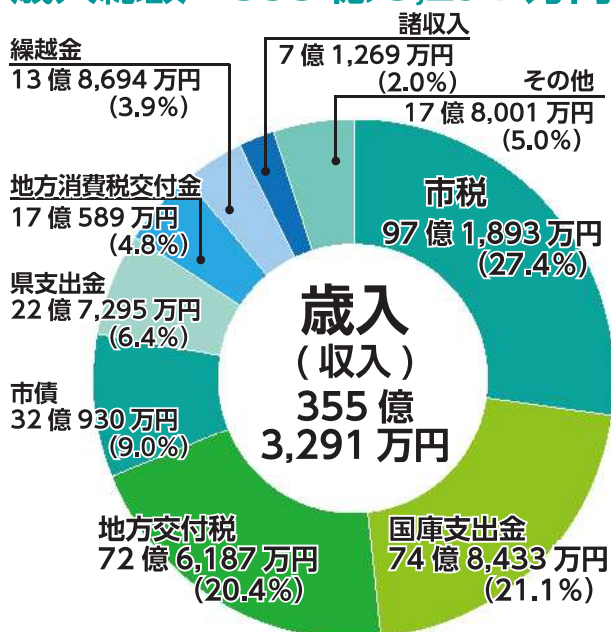
人口：72,137人
 世帯数：31,611世帯
 (R4.6.30時点)

◎令和3年度の一般会計決算は前年度と比べ、収入・支出ともに減額となりました。
 収入減の主な理由…国庫支出金の減、地方交付税の減
 支出減の主な理由…特別定額給付金の減(総務費)、新広域ごみ処理施設建設事業の減(衛生費)

一般会計

市の基本的な行政運営を行うための会計 ※()内は総額に占める割合
 歳入・歳出予算総額：393億8,021万円

歳入総額：355億3,291万円



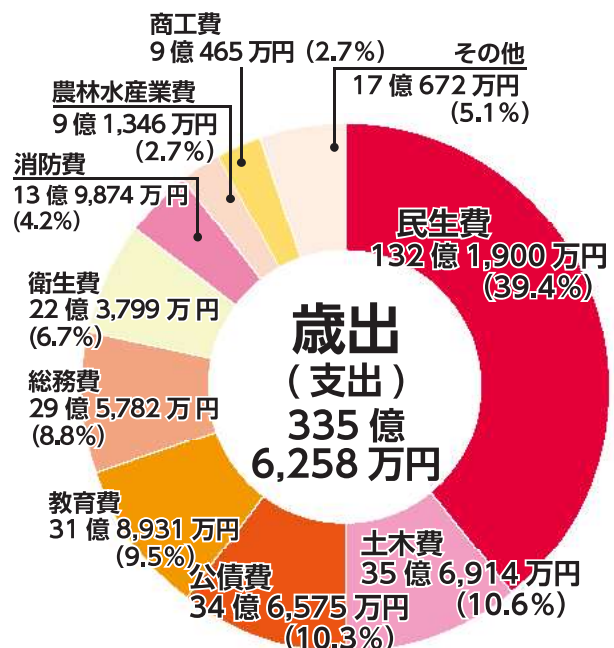
【用語の解説】

市税…市に納められた税金
 国庫支出金…市が行う特定の事務事業のために国から交付される補助金や委託金
 地方交付税…国税のうち、一定の基準に基づき市に配分される税
 市債…公共施設の整備などにあてるための借入金
 県支出金…市が行う特定の事務事業のために県から交付される補助金や委託金
 地方消費税交付金…地方消費税のうち、一定の基準に基づき市に配分されるお金
 繰越金…令和2年度から繰り越されたお金
 諸収入…市の預金利子や雑入など
 その他…国税のうち市に譲与されるお金や寄附金など

歳出総額：335億6,258万円

【用語の解説】

民生費…高齢者や児童、障がい者の福祉推進の経費
 土木費…道路や公園、駅周辺施設の整備や維持管理の経費
 公債費…市債の返済にかかる経費
 教育費…小中学校や図書館、文化振興などの経費
 総務費…市役所の庁舎管理や市税の賦課徴収、選挙などの経費
 衛生費…医療や環境対策、ごみ処理などの経費
 消防費…消防や救急業務・防災対策などの経費
 農林水産業費…農林水産業の振興などの経費
 商工費…商工や観光業の振興、観光施設の維持管理などの経費
 その他…議会の運営などの経費



特別会計

市が特定の収入で運営する事業のために特別に設けられた会計

特別会計名 予算額	上段	収入済額（収入率）
	下段	支出済額（執行率）

〔会計別予算と執行額〕

国民健康保険	75億4,671万円 (94.8%)	72億9,848万円 (91.7%)	79億6,299万円
介護保険	73億1,133万円 (98.2%)	70億1,177万円 (94.2%)	74億4,421万円
後期高齢者医療	9億8,744万円 (98.3%)	9億8,736万円 (98.3%)	10億427万円
介護サービス事業	2億7,883万円 (86.6%)	2億7,883万円 (86.6%)	3億2,194万円
駐車場	1,604万円 (102.7%)	1,458万円 (93.3%)	1,562万円
霊園事業	1,522万円 (113.7%)	1,218万円 (91.0%)	1,339万円

企業会計

民間企業のように収益によって運営を行う会計

収益的収支…管理運営のためのお金
資本的収支…施設の整備・改修のためのお金

◆公共下水道事業

下水道施設の管理運営

収益的収支

収入：25億1,780万円	22億3,668万円 (88.8%)
支出：23億2,995万円	16億196万円 (68.8%)

資本的収支

収入：9億4,915万円	5億1,676万円 (54.4%)
支出：19億7,973万円	15億673万円 (76.1%)

◆水道事業

八郷地区の水道施設の管理運営

収益的収支

収入：5億8,376万円	5億7,690万円 (98.8%)
支出：5億4,607万円	5億1,686万円 (94.7%)

資本的収支

収入：3億157万円	1億4,779万円 (49.0%)
支出：4億2,110万円	3億2,569万円 (77.3%)

◆農業集落排水事業

農業集落排水施設の管理運営

収益的収支

収入：4億6,680万円	4億4,024万円 (94.3%)
支出：3億6,571万円	3億5,339万円 (96.6%)

資本的収支

収入：171万円	152万円 (88.9%)
支出：1億7,441万円	1億7,371万円 (99.6%)

令和2年度から公共下水道事業会計と農業集落排水事業会計は企業会計に移行しました



令和3年度の石岡市の財政状況は…

健全

な状態であると判断することができます。

平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が公布され、市の財政状況を4つの指標で表すことになりました。

令和3年度決算に基づく石岡市の指標は昨年度に引き続き、健全な状態を示す数値となりました。健全といえる理由については次のページをご覧ください。



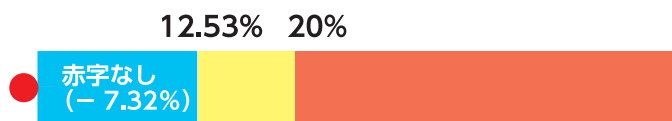
▲上空から撮影した霞ヶ浦と筑波山

石岡市の財政状況はどうして**健全**と言えるの？

財政健全化判断比率

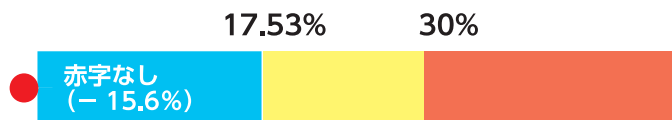
実質赤字比率

一般会計を中心とした赤字の割合



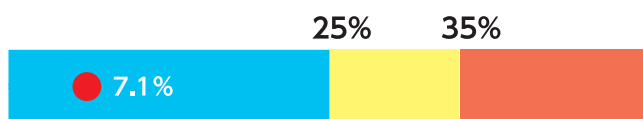
連結実質赤字比率

一般会計のほか、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の割合



実質公債費比率

市の標準的な年間収入に対する借金返済額の割合



将来負担比率

市の標準的な年間収入に対する将来負担が見込まれる債務の割合



● 市の現状値 ■ 健全 ■ 早期健全化団体 ■ 財政再生団体

健全化判断比率のミカタ

Point1：2つの赤字比率「なし」

一般会計の赤字額を示す「実質赤字比率」と特別・企業会計を含めた全会計の赤字額を示す「連結実質赤字比率」は、上記の通り、どちらもマイナスを示しています。よって、前年度に引き続き健全な状態であるといえます。

Point2：実質公債費比率が基準を超えていない

標準的な年間収入に対する借金返済額の割合を示す実質公債費比率は7.1%（上記参照）でした。言い換えると「石岡市の一般的な財源のうち7.1%を借り入れの返済に充てた」ということです。これは、前年度の7.8%と比較して改善されています。

ここをCheck：今後公債費は増える予想。引き続き経費削減などの努力が必要。

実質公債費比率は早期健全化基準を下回りましたが、今後、上曽トンネル整備事業や公共施設の改修事業などにより、公債費が増加していくことが予想されます。また、人件費や扶助費など継続的に支出する経費も84.5%という高い割合を占めています。数値上は昨年度から改善していますが、事業の重点化・効率化などを行い、引き続き経費の削減に努めていきます。



▲上曽トンネル完成イメージ（石岡市上曽）

Point3：借り入れ等の将来負担は一般財源の約0.15年分

長く使用する施設の整備費用は、世代間の費用負担の不平等をなくし、次の世代にも負担してもらうよう地方債を借りて事業を行っています。

将来負担比率とは「市が将来負担することが見込まれる借り入れなどの総額」を「標準的な年間収入」で割り返した数値で、高いほど財政が圧迫されていることを意味します。令和3年度は、前年度と比較すると、普通交付税額と基金残高が増加したため18.1%減少し、15.2%でした。